全六冊
上編
へ13
2378
178

遠13
2378
178

文政十丁亥春新彫

梅川忠兵衛相合駕籠

墨川亭雪麿作　榮久堂

五渡亭國貞畫　山本平吉梓

東京大学

砂邑の陸瓜中山の昆蒻いろ〳〵貝よりも裏劔四文屋の松茸
ほろ鱸淀川の鯉唐山も及ばぬ珍味と竭も會席仕ゝその料理茶屋
わり昼と戯作者よ聲言れば笠翁卓五只の両本子の献立よく手と神一庖丁ま。
做て書る大人の戯作者らもあれ則京の割家ゑり僕ごとき四文屋わく。
屑より一字の本價もなく詰賣ゆゑ絵ゆの陳太畠わん酒芋由樂甘番
椒味噌の辛しそやうく出てる屋基屋店腹〳〵下品の俗文章にて料理茶屋
を真似んおい〳〵何よ捨〳〵世中るゝも御者ゆい伝よけ〳〵草蒟の差味い
らの酸貝陸瓜の吸物ゆく看宮の来賓ゑ酒と獻ゑ〳〵忽ち五
醒るゝと矢張持ゑの下鼻尽で繻ゑ梅川忠兵衛ゑ其名ゑ〳〵戎仮
駕の下書に日と送りて奈良の旅籠屋三輪の茶店五日三日も夜と
二十日余りに六十張稿く果して二部落成相合駕と逢見茶い栄久
堂ゑ今歳の新板何でも四文ぢや。合巻の熟の〳〵。

文政丙戌春脱成
仝　丁亥春発市

墨川亭雪麿述

相合駕

林屋正藏

忠兵衛女房梅川

柵の間

櫻の若君種若丸

櫻家の忠臣亀谷忠兵衛

大伏太太

家来

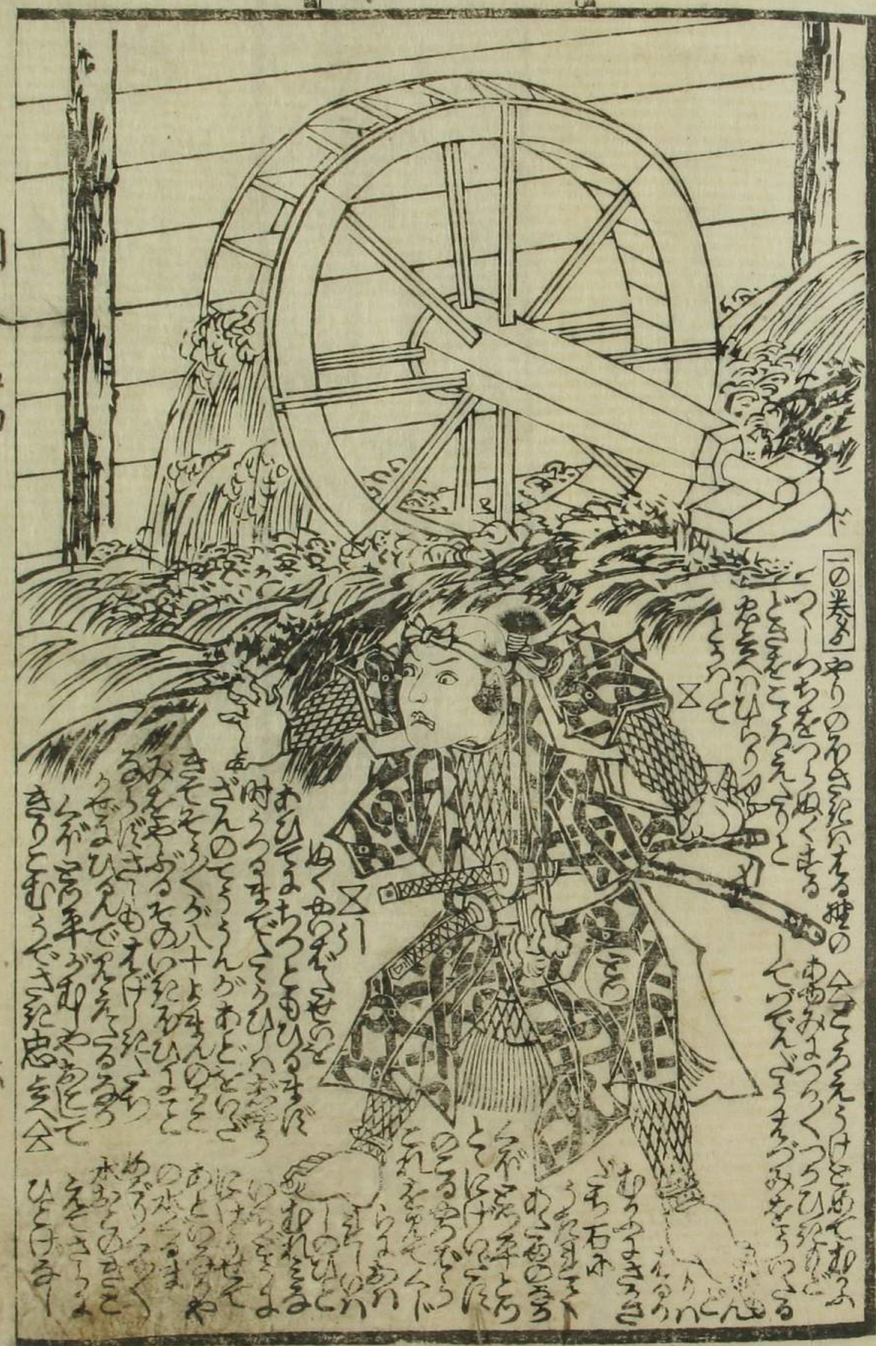
徳兵衛女房
阿袋

栅間の
家来
凹凸平
平野屋
徳兵衛
乳母
柏葉
一子
栗松

○柵間金姜
驕奢ゆゑ
貌を玄宗ふ扮
遊貞の圖

○梅川阿發の両女
姿を唐女のえ
全足女が心と奉事

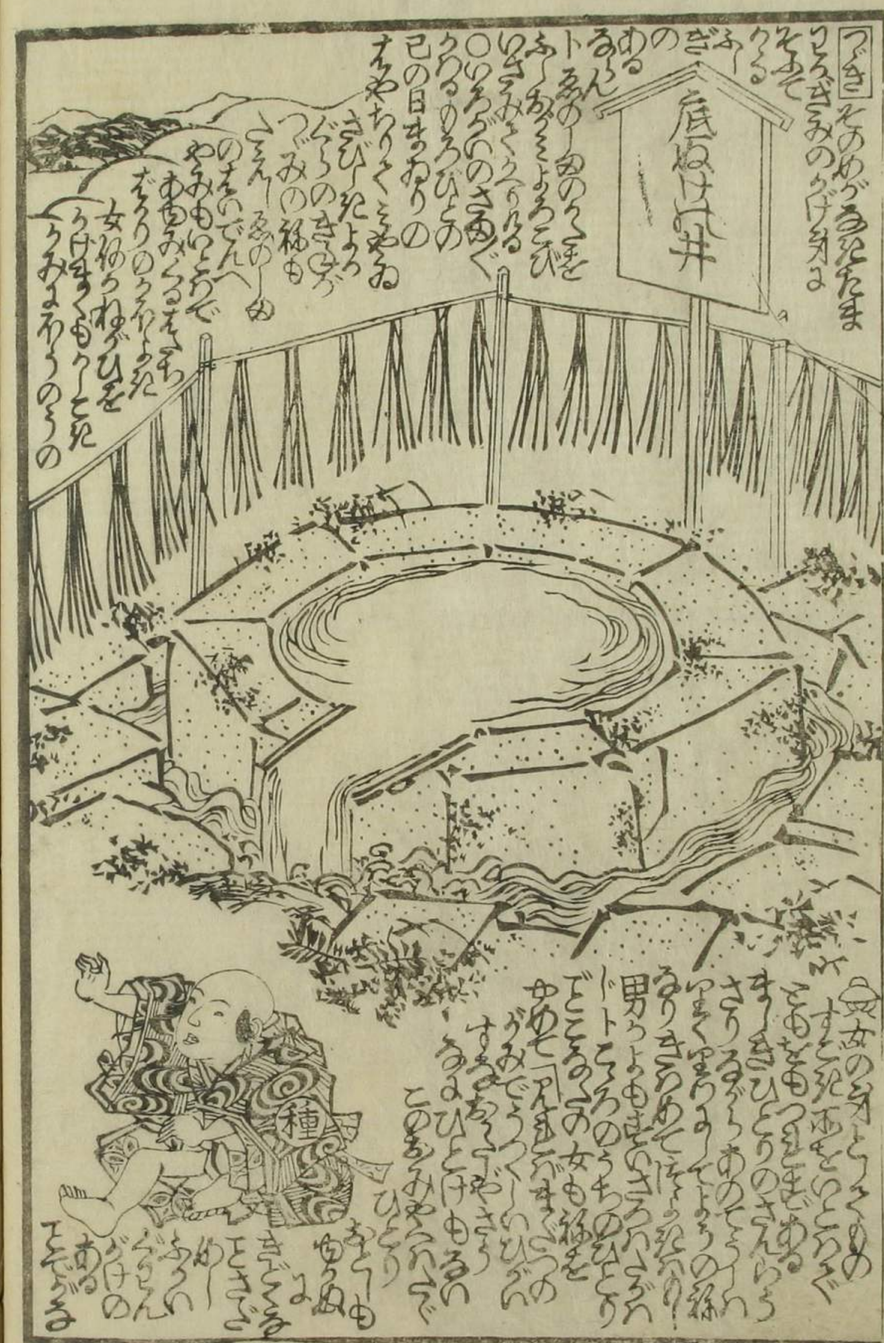
つぎ　こうとう男よあつるのうれど今まぬる男の
のりてあくくんなまうぶとうれんとうこうるた
あとのうくみとあがめしてやさうまセト
さいうごたをやたえいるこうぶうこうけ
あうこむそのめいうれしとくるむきのまうのよ
ようりのつけよそりせうぶうるきいなのこと
これがけとあのこまうぶひうこうぎみさぬの
あうぬこうぶうこうのちうどうさ
けれどもうう目がたえぬト
下ところぶよのうぶちうろ
るたすうぶうれがんまうく
たやうりのたうぶのう
そのありうぬうびいうる
とてかひうとうたえい
くうろうよたうぶまあわ
せねんぶうままたうぶ
くうのたんうえうそうう
わうくうまうもむうくと
たせのうのめのうとあうと
ねうえいちうともううぶううぶ
ふとうろうまううりいうぶて男づく
ろいたうまうぶうろうるう
ぬうきのぜんのうろうのもの
どもうへーまりてあとうたより
たうらくとひうたうみ「ぶの
女うもうりあるとうもてたのうこと
うれうくうえねんせうよとうたうくる　二の巻へ



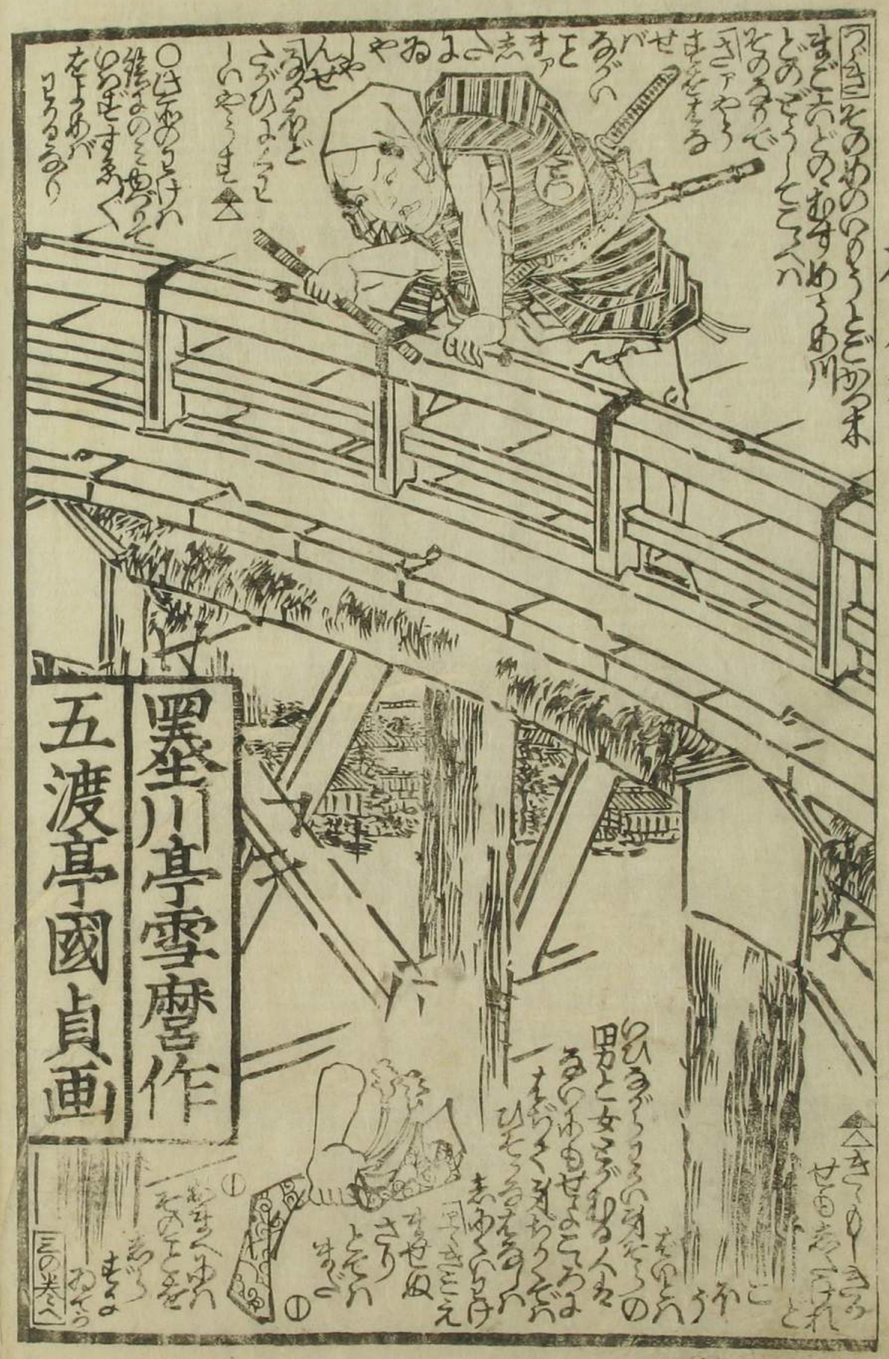
一の巻へ　やりのうぶたいうる雛の
つくーうちをつうぬくまる
どうぶをこうろうえうとう
ねうえいひうりうて
とうりて
又
ぬくぬうぶくもの
むひうようちうともひうるまぶ
ぬううまぶうこうひうぬうう
ざんのうこうんうあうどうぶ
きうそうくうぶ八十ようんのうう
みうやぶうるうのいうたうひうこう
るうぶうさうもうげうたうう
うぶうひうんぶうたうるうう
ムうぶうう手うりうやうあうて
きううこむうぶうさうた忠うへ
又

柏
種

栗
あ
ち


底ぬけの井
種

忠心

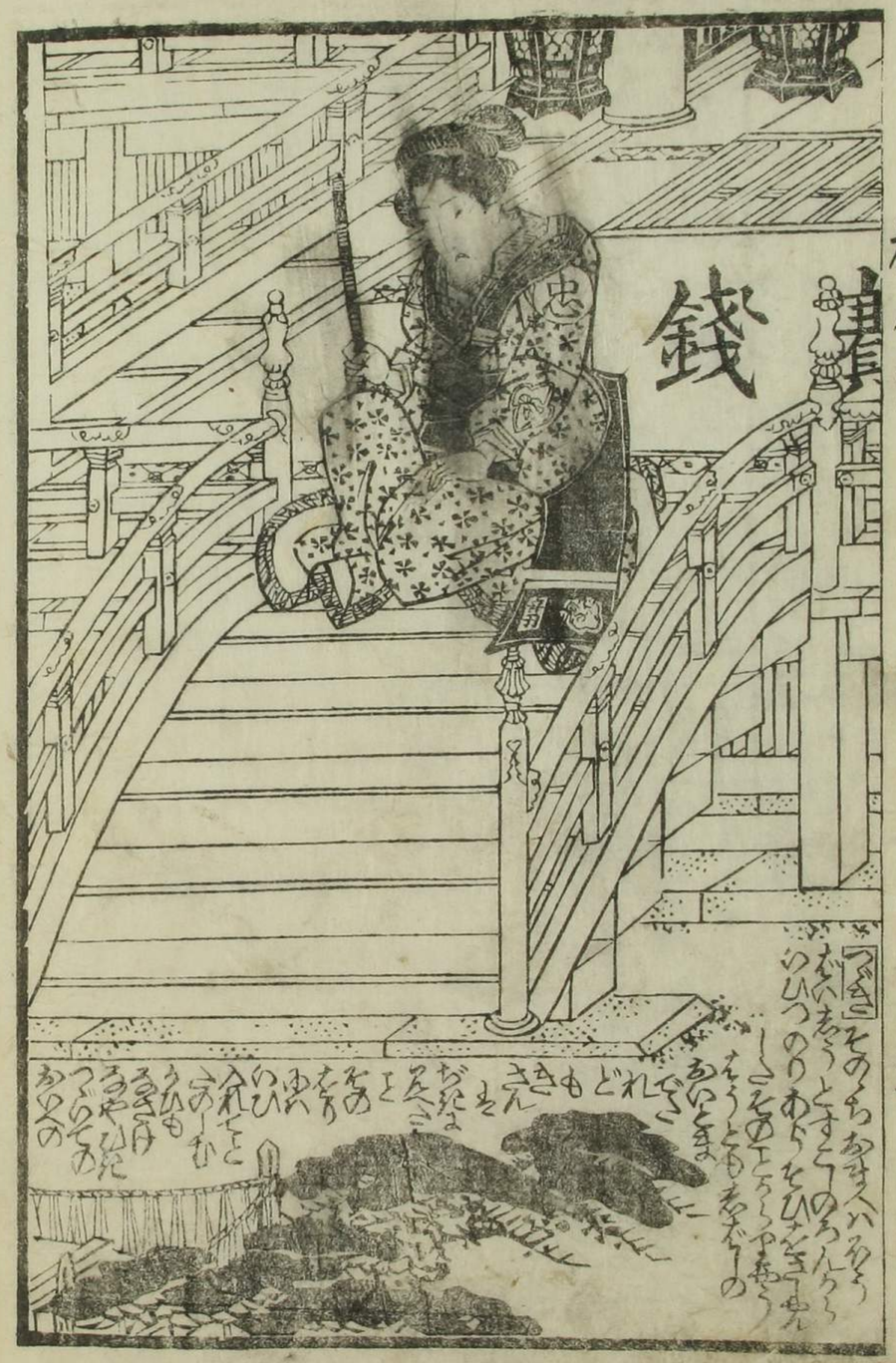

墨堤川亭雪麿作
五渡亭國貞画

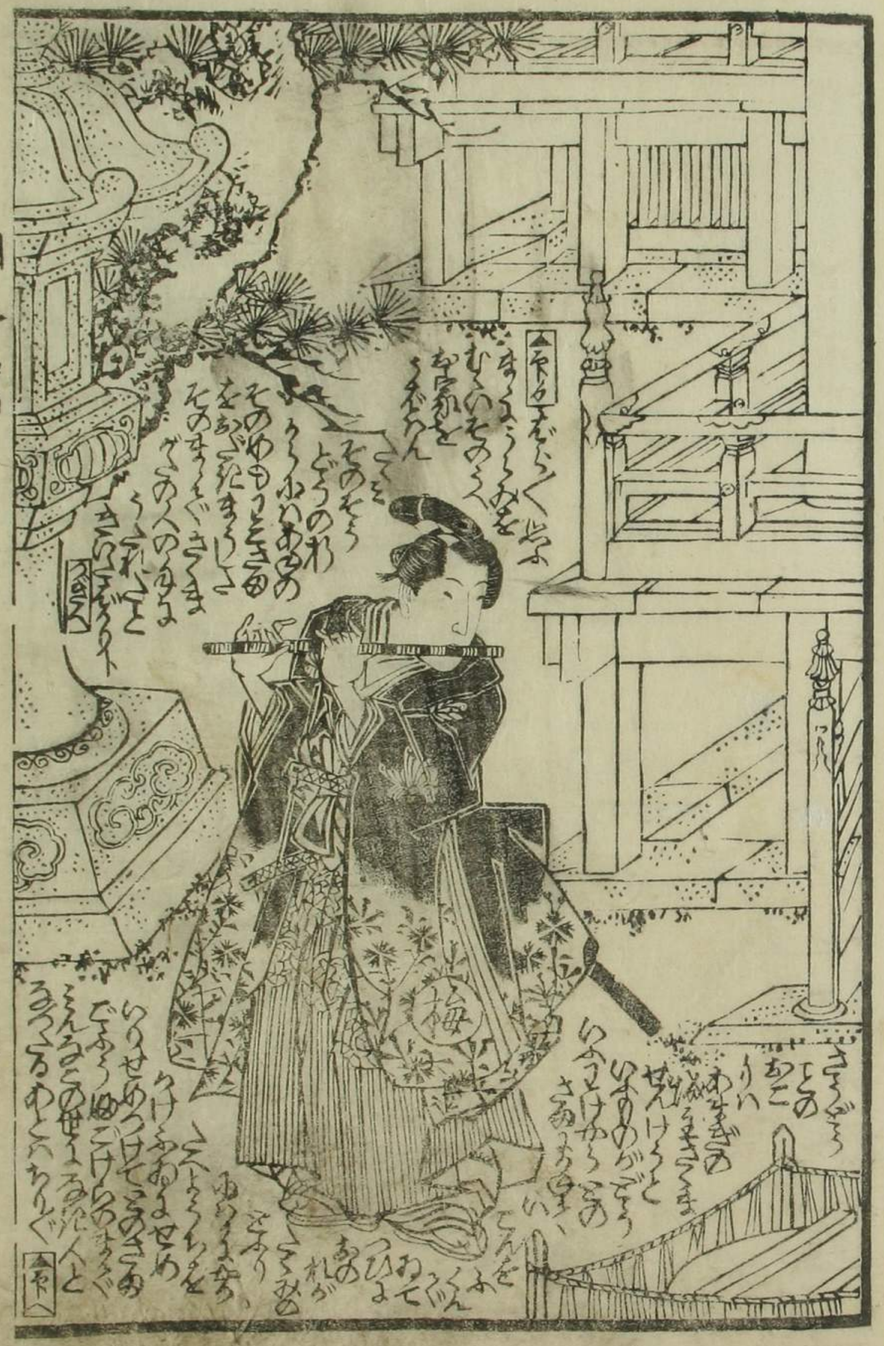
新春爰
文政十年
板
中編
歌麿作

相あいかま中編

亥乃春

雪麿作


銭



奉
納

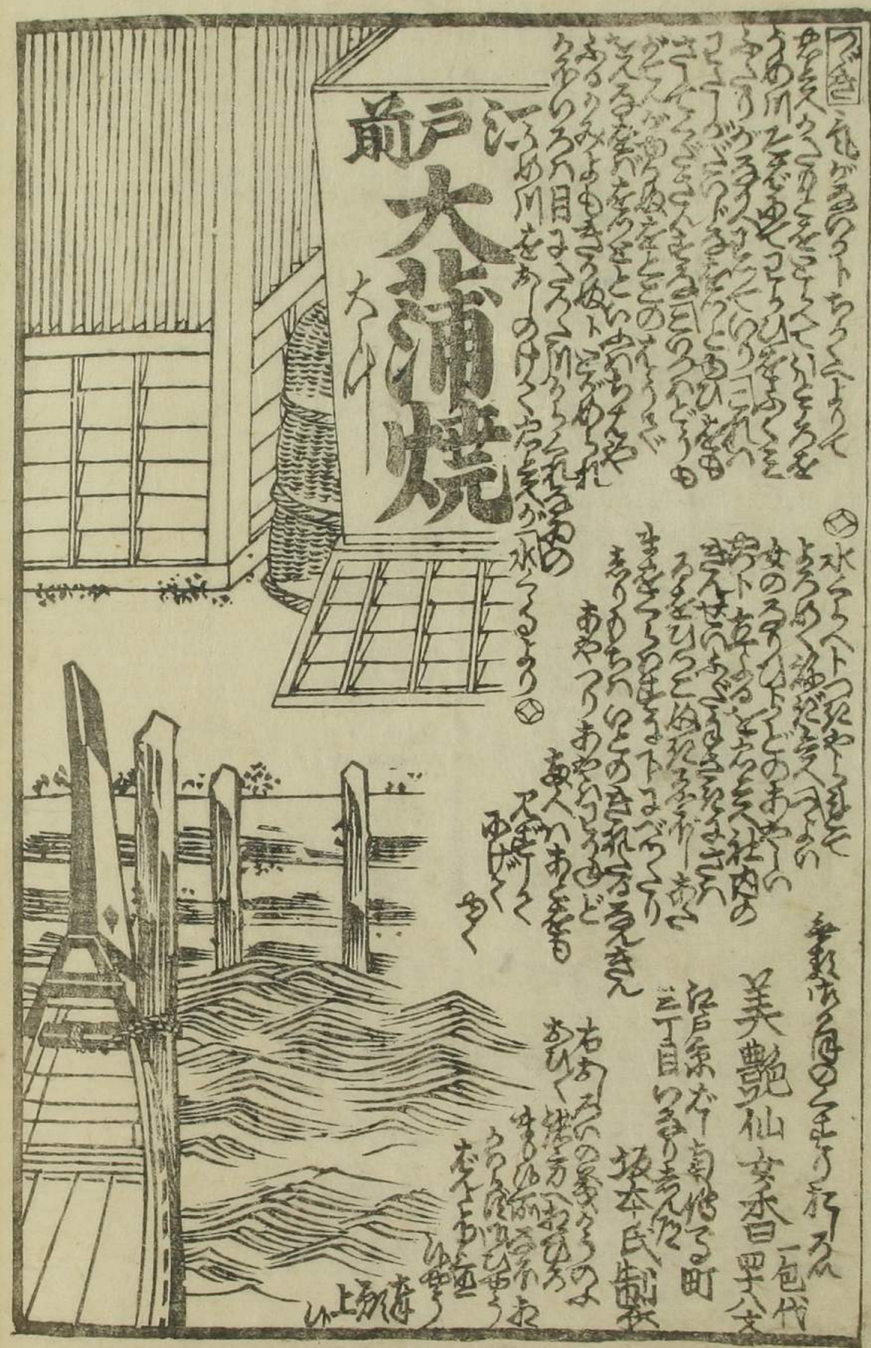
願主 山本平吉
梅

称

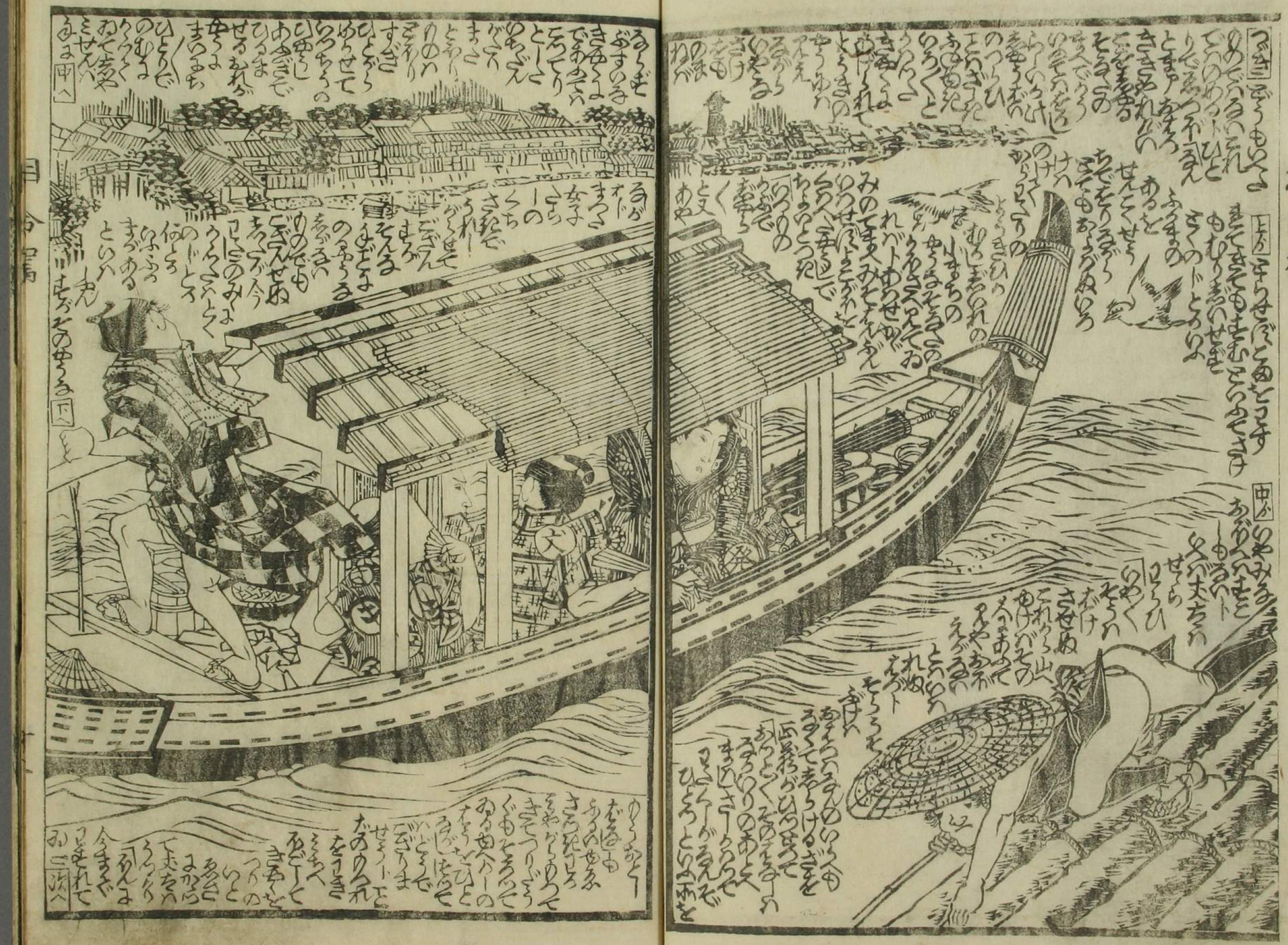
梅

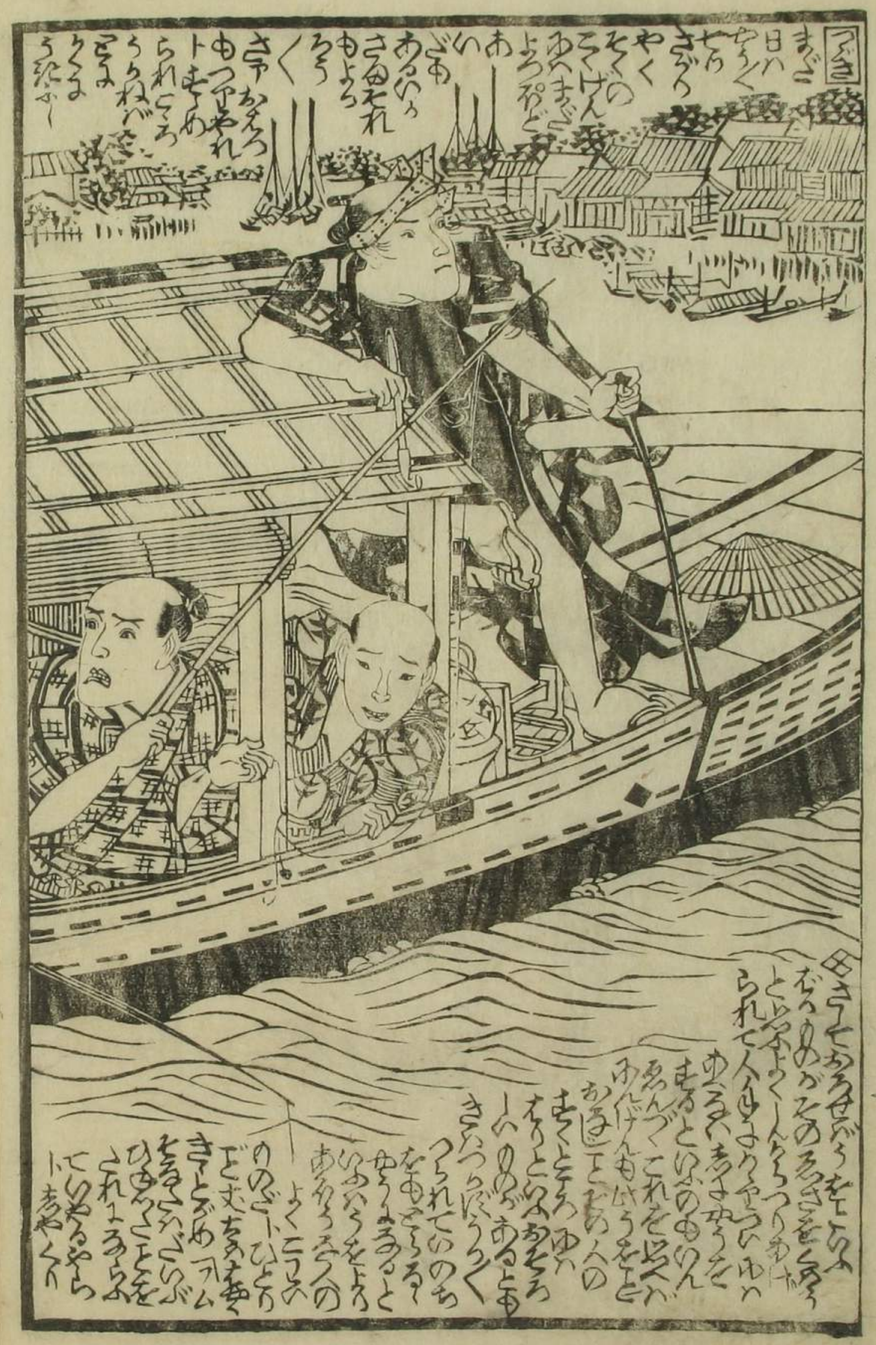
忠
梅
立目

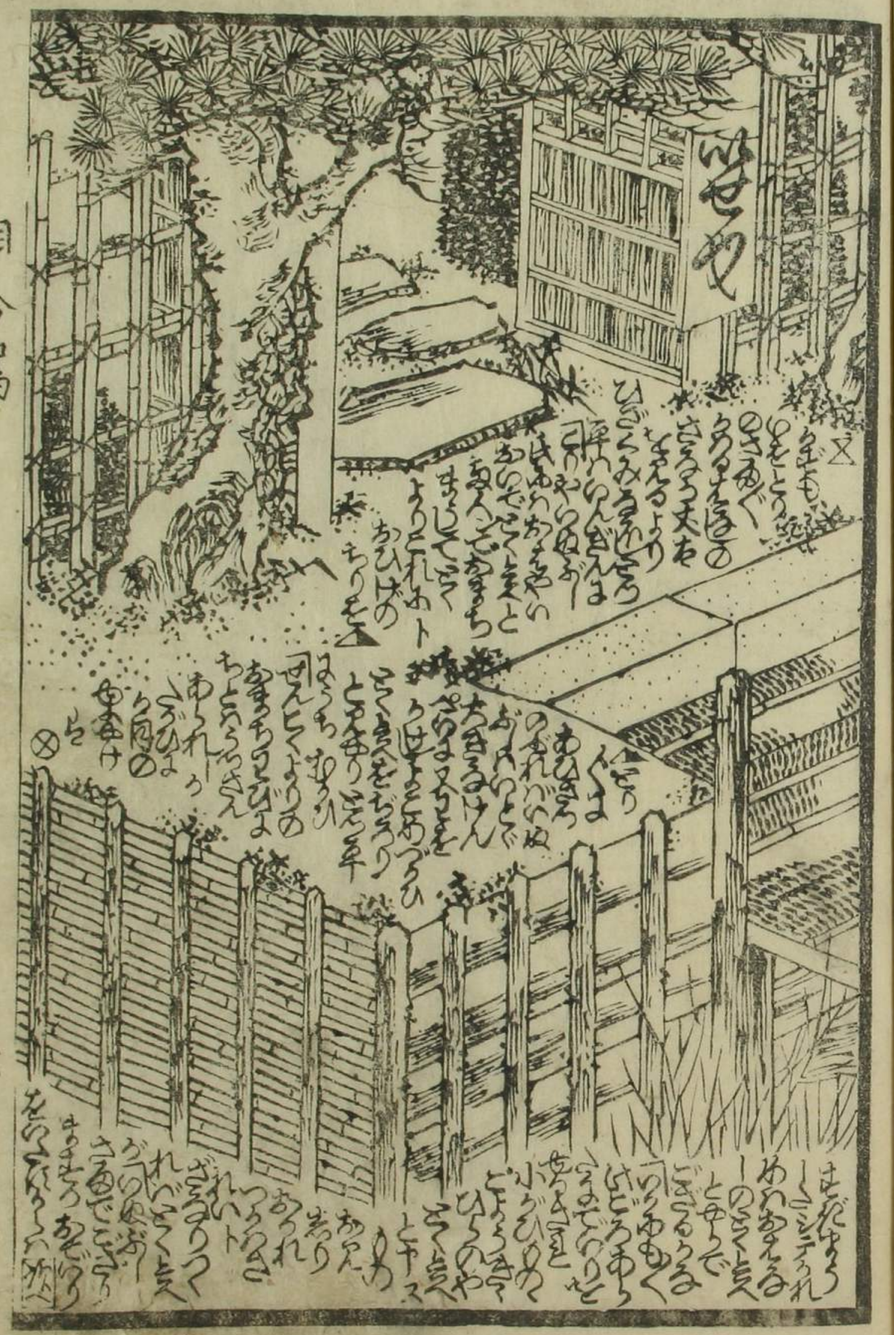
称


江戸前
大蒲焼
美艶仙女香
坂本氏製

大入叶
歌川







御大名火消
定火消御役
火事御出役

御場所附 いろは番組町火消附

両面摺

此出火の場所出役の名前の出場所をこゝに出す
番組町火消人員数取組所町名家数目印いろは組合の事
てん方をとゝのへ一くゝ印一の母すぐに火の場よりかゝり
ものを出さんあつめ出役池魚の災ひをのがれまつ物の侍
あるものをたしなくあまねく世に知らしめ書也

新版 江戸 本所 深川 **いろは組纏ばくゝ**

両面摺

此出火深川先年より夢出
中ハ家ものゝ本家高橋求上様
四度ハくるゝ出役ハ上ハ
江戸一ノ番組 山本平吉 板

江島清國貞画

下編

亥春新板雪麻呂作

下相合駕籠編

國貞画

亥新板

榮久堂

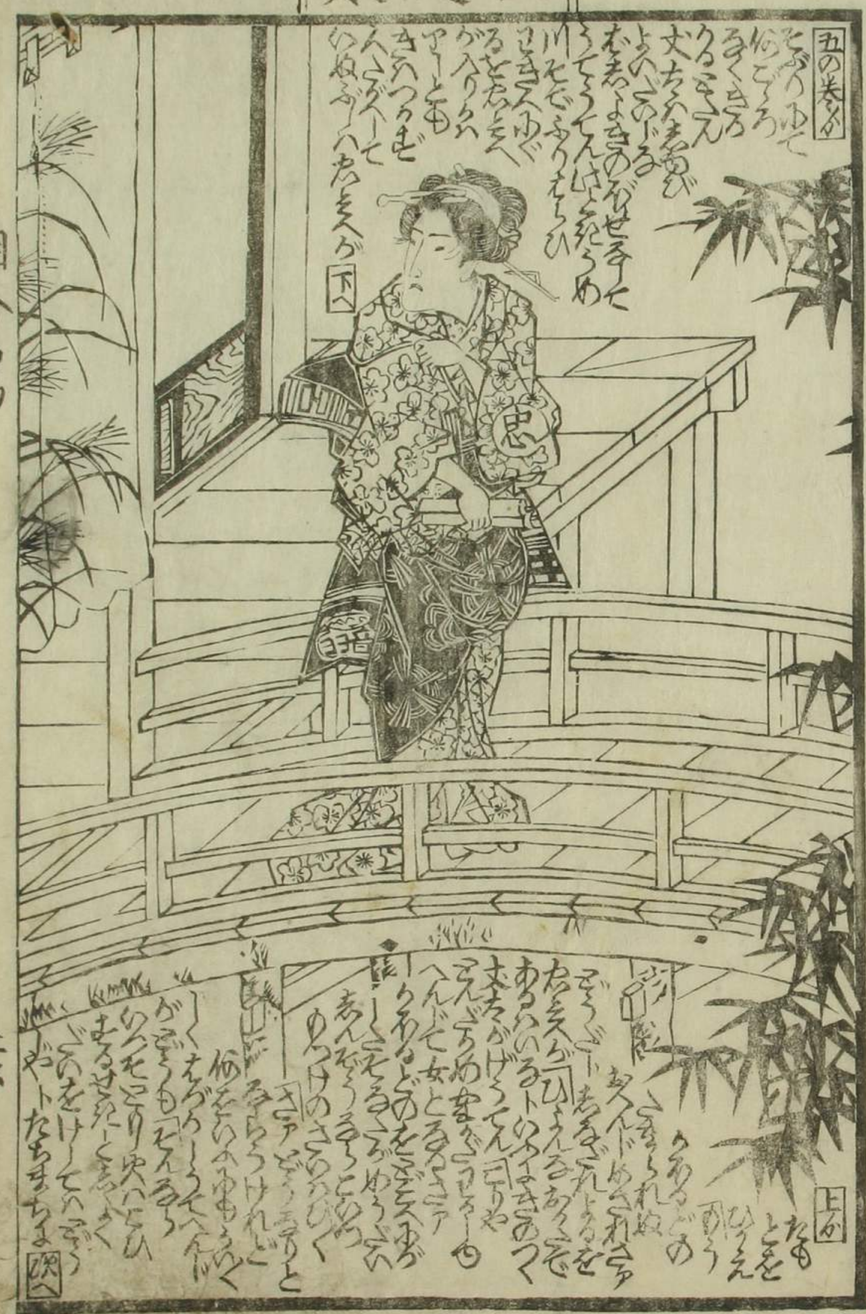
五之巻

梅
徳

発
丈
とら

発
立久

徳



極
丈

忠

徳
丈
発
梅
正

発
梅

徳
忠

墨川亭雪麿作

彫工 村数彖蔵　筆工 谷金川

五渡亭國貞画

日本歌書　逢駒　柳亭種彦作
人形筆五色絲藏　全十二冊　前編六冊後編六冊　五渡亭國貞画
有馬の温泉　水調子
梅川　忠兵衛　相合駕江之島詣　雪麿作　國貞画
相生の石碑　逢見茶娘入小袖　歌川豊國画
雪路時雨駕乃渡　十返舎一九作　北尾重政画
菊壽　山東京山作　童蒙孟子　歌川國安画
伊達安辰巳八景　市川三升作　歌川國安画
志賀の春金比羅　三尾重政画
想合對菅笠　上梅幸作　豊國画
美女香　仙女香　坂本氏
地本類　問屋　榮久堂　江戸十軒町　橋角　山本平吉藏版

十七井[illegible]